

実践例

「民謡（わらべ歌，子守歌）の音階を用いて楽器のための旋律をつくる活動」

中学校音楽科第1学年

1 題材「イメージを表現しよう」

- 2 教材 ○ 「日本の祭りの音楽と芸能」（鹿児島小原節，祇園囃子，津軽じょんがら節
長崎くんち，エイサーなど）
○ 「子守歌（ようかい）」 種子島民謡：鹿児島市中学校音楽部会 採・編曲
○ 「生徒による創作曲」

3 題材のねらい

- (1) 歌唱，創作活動を通して，日本の風土に根ざした多様な音楽文化があることを理解し，良さを味わう。
(2) 我が国や郷土の伝統音楽に用いられている音階の特徴を感じ取らせ，イメージをふくらませながら自由な発想による創作を工夫する

4 教材について

- (1) 「日本の祭りの音楽と芸能」では，鹿児島小原節を中心に日本各地の民謡や祭りのおはやしを鑑賞させることにより，日本独特の音楽表現に触れることができる。
(2) 「子守歌（ようかい）」は種子島民謡であり，古くから種子島全島で歌われ，親しまれてきた。島の方言による歌詞の内容をしっかりと把握し，地域の実情や曲の成り立ちを考え，内容を十分理解させたいうえで歌わせるとともに，平易な旋律であることからソプラノリコーダーでの演奏も可能である。この教材を使用することにより，我が国の伝統音楽に使われている音階の雰囲気を感じ取り，民謡の特徴を理解させ，日本の音楽のよさ，素朴な美しさを味わわせることができる。
(3) 表現したいイメージをもとに「子守歌（ようかい）」の5音音階を用いて音楽を構成する原理をかかわらせながら旋律をつくり，それらの演奏を互いに発表，鑑賞することで，音を音楽へと構成する体験をさせることができる。

5 学習指導要領との関連

- (1) 第1学年の鑑賞の活動では，〔共通事項〕との関連を図りながら，

ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き言葉で説明するなどして音楽のよさや美しさを味わう能力
--

イ 音楽の特徴を文化・歴史や他の芸術と関連づけて鑑賞する能力

ウ 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り鑑賞する能力

を育てていくことが指導のねらいとなる。

取り扱う鑑賞教材については，「我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国のさまざまな音楽のうち，指導のねらいに適切なものを取り扱う。」とある。鹿児島県は南北約 600 km という広大な県土を有し，郷土の音楽が多種多様に存在しており，それぞれの音組織，リズム，旋律，楽器の音色・奏法・構造なども多様である。鹿児島独特のものも多く，教材として郷土の音楽を生かしていくことは，音楽的な視野を広げ音楽の多様性を感じ取ることができると考えられる。

(2) 第1学年の創作の活動では、〔共通事項〕との関連を図りながら、

ア	言葉や音階の特徴を感じ取り表現を工夫して簡単な旋律をつくる能力
イ	音素材の特徴を感じ取り反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくる能力

を育てていくことが指導のねらいとなる。

イの事項においては、生徒が、音素材の特徴と音楽の構成に直接向き合うこととなるので、実際に形として表れる音楽表現の完成度を追求するだけではなく、活動の過程ではぐくまれる能力に目を向けた指導を行うことが重要である。

(3) 学習指導要領の内容と教材の関連表

(◎は重点事項、○は関連する指導事項)

学 年	領 域	内 容	音 楽 と 芸 能 日 本 の 祭 り の	よ う か い	創 作 曲	
第 一 学 年	表 現	ア	歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと。	○		
		イ	曲種に応じた発声により、言葉の特性を生かして歌うこと。	◎		
		ウ	声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。			
	器 楽	ア	曲想を感じ取り、表現を工夫して演奏すること。		◎	◎
		イ	楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること。		◎	◎
		ウ	声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて演奏すること。		○	○
	創 作	ア	言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること。			◎
		イ	表現したいイメージをもち、音素材の特徴を感じ取り、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら音楽をつくること。			◎
	鑑 賞	ア	音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。	◎		○
		イ	音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて、鑑賞すること。	◎	○	
ウ		我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞すること。	◎			
		〔共通事項〕 ア 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを生み出す特質や雰囲気を感受すること。 イ 音楽を形づくっている要素とそれらの働きを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解すること。	音色 速度 旋律 強弱 形式 (序破急) 構成 (反復、変化)	音色 リズム 速度 旋律 強弱	音色 リズム 速度 旋律 強弱 形式 構成	

※ それぞれの教材について、教科の目標、内容に照らし合わせるための上記のようなマトリックス表を作成し、教材一覧としてまとめておくとよい。

6 指導計画（全5時間）

時	教材	主な学習活動	教師の働きかけ
1	音楽や芸能 日本の祭りの	<p>日本の祭りの音楽や民謡を聴き、楽器の音色や響きの特徴をつかもう。</p> <p>○（一斉）日本各地の代表的な祭りの音楽や芸能を鑑賞する。それぞれの祭りの成り立ちや人々のくらしとの結びつきについて知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 曲の持っているよさや特徴に関心を持ち自己のイメージを広げながら鑑賞させる。 日本の特徴的な旋律を聴取し、音階の特徴が時代と地域にかかわりあうことを理解させる。
2	ようかい 鹿児島小原節	<p>郷土の民謡について、どんなものがあるか調べよう。</p> <p>○（一斉）郷土の民謡にはどんなものがあるか話し合う。</p> <p>○（一斉）「鹿児島小原節」、「ようかい」を歌い、歌詞の意味やイメージ、心情をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 郷土の民謡に興味を持たせ、地域や時代的背景を理解させる。 旋律のまとまりと構成を理解させながら、正しいリズム、音程で歌わせる。
3	ようかい 創作曲	<p>「ようかい」に用いられている音階で、ソプラノリコーダーのための旋律をつくろう。</p> <p>○（一斉）「ようかい」をソプラノリコーダーで演奏する。</p> <p>○（個）「ようかい」の音階を用いて四分音符4拍分の旋律をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子守歌にふさわしい歌唱表現や楽器演奏をさせる。 記譜に際しては、苦手意識を持つ生徒も多いことを考慮し、記譜させることにこだわらないようにする。（生徒の演奏を教師やリーダーが聴いて記譜するなど工夫する。） 音色、リズム、速度、強弱等の音楽を形づくっている要素に焦点をあて旋律を工夫させる。
4		<p>○（グループ）それぞれが創作した4拍分をグループで話し合いながら組み合わせ、4分の4拍子8小節の旋律をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> リーダーを中心に試行錯誤させながら、それぞれの旋律をどう組み合わせるかを考えさせ、グループで表現したいイメージに近づけるよう適切な助言を行う。
5		<p>それぞれのグループによる作品の発表会をしよう。</p> <p>○（グループ）前時までの活動を想起し、修正や確認を行う。</p> <p>○（グループ・一斉）創作した旋律で表現したいイメージを説明し、作品を発表する。</p> <p>○（グループ・一斉）相互評価を行い、それぞれ工夫した点を話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループ毎に作品を見直し、演奏の際に工夫する点を確認させる。（タンギング、アーティキュレーションなど） グループで考えた表現したいイメージの説明、創作した旋律の演奏など役割分担をさせる。 互いの演奏の鑑賞の際は、音色やリズム、構成などの違いを気付くことができるよう助言する。

※ ゴシック……学習指導要領の内容を生かした部分。

（鹿児島大学教育学部附属中学校公開授業指導案を参考に作成）